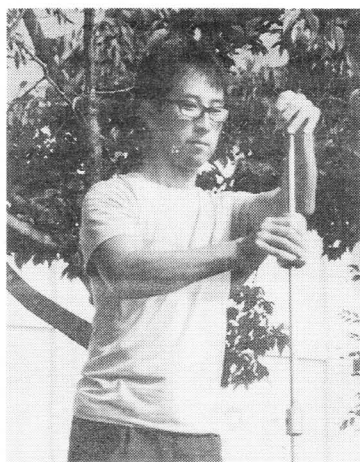


被災地の復興を願う

静岡市(現富士市) 喜多 智靖



私が農林大学校を卒業したのは二十十年。造園会社での修業を経て樹木医の資格を取り、自分の会社を作って忙しい毎日を過ごしています。今年の春には宮城県石巻市に事務所を開設し、月の半分を向こうで過ごしています。

発端は、昨年ボランティアで訪れた被災地で枯れ果てた木々を見たことです。私に何かできることはないのだろうか考えた結果、石巻周辺の個人宅等を対象に、塩害土壌の分析、除塩プランの作成を始めました。復興の手助けとなることを願い、ボランティアではなく本格的な事業化を選びまし

た。現在、NPOの設立を準備しており、本格的に小学校や保育園などの木々を救いたいと思っております。興味のある方は是非お声をかけて下さい！

夫婦揃って農大です

島田市金谷 鈴木 聡・なつ美

時の流れは早いもので、農林短大を卒業し早二十五年になりました。私は茶業、妻は園芸学科を卒業し、五年後に結婚、二人三脚で農業経営に悪戦苦闘してきました。二人のドタバタ人生を語るには紙面が短すぎるので、ここでは最近携わった屋久島での茶栽培の話をお願いします。



と思いますが、実は年間四千リを越える多雨の島、鹿児島より早い新茶の産地でもあります。その茶園では、降雨時も雨合羽を着てお茶刈をします。激しい雨で全身が濡れでも二十リ先の摘採機が確認できれば作業は中止しません。静岡では考えられないこと

造成地で頑張る

静岡市清水区茂畑 杉山 大智

です。また、ある時、島の責任者から茶の苗が鹿の被害で次々と枯れるので調べてほしいとの依頼を受け、静岡空港から一泊二日の強行軍で調査に向かいました。原因は鹿ではなくネコブ線虫でした。静岡では線虫はいても被害はほとんどありません。改めて環境の違いに驚かされました。

私は、今年で就農四年目になりました。清水で茶二・七畝、柑橘(青島温州)一畝を栽培しています。農林大で勉強したことを活かして



て気持ちのいい汗をかき、果樹学科を卒業した

屋久島 屋久島 釣りがいけるほど透き通った海での遺産、た垣根のバナナ、夜の茶園から眺めた満天の星空など思い出多いのイメ

ので、これからは柑橘の経営面積を増やそうと考えています。幸い、地元の土地改良区を通じて、大幅な面積拡大が可能です。

ージを 二十五年の間に地域の農業は大きく衰退しました。この原因は個々の技術や経営能力が地域で継承されていないからだと思

在学二年の時に三ヶ日の研修先で色々な経験をさせていただきました。ここで学んだ作業の省力化や経営のノウハウを参考にし